

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 屋嶋城跡(浦生地区)と長崎鼻古墳を訪ねる

講師 渡邊 誠  
(高松市文化財専門員)

平成27年10月25日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

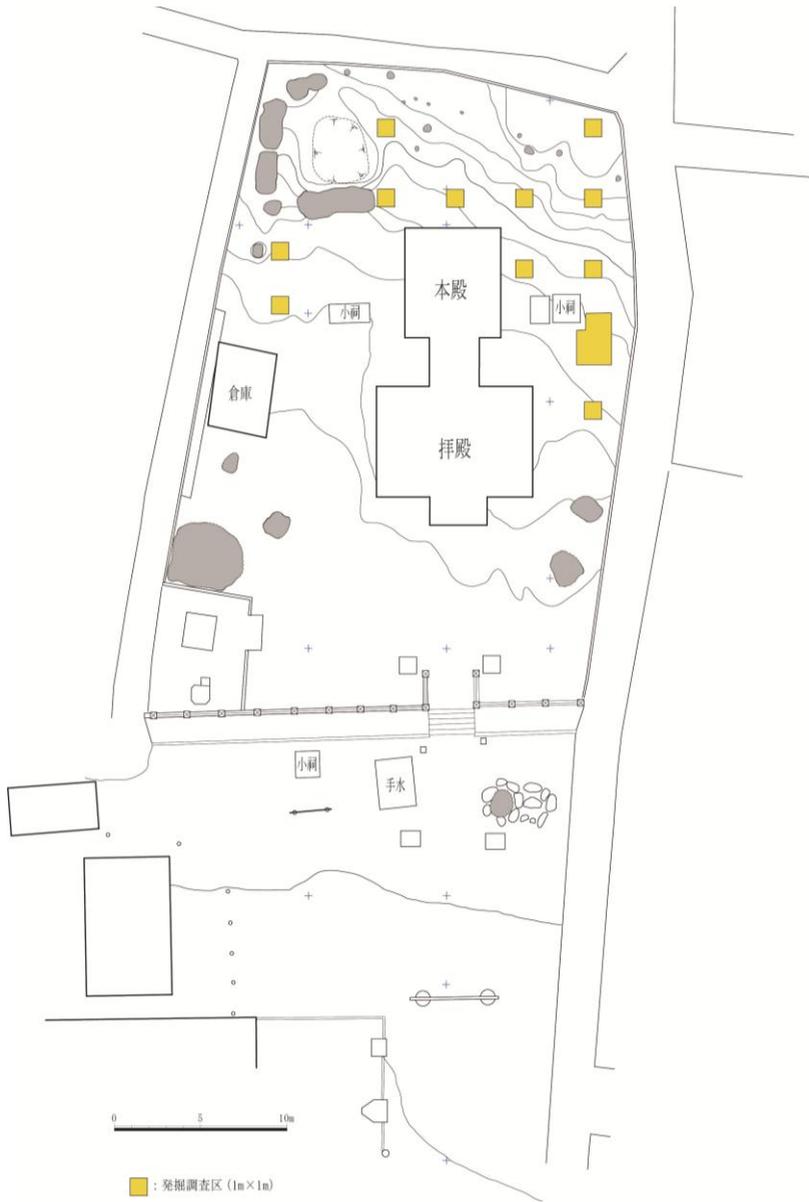
## 1 鵜羽神社と鵜羽神社境内遺跡

社記によれば、『古事記』の鷗草葺不合尊（ウガヤフキアエズノミコト）がお産まれになられた場所がこの地のことと、豊玉姫八尋の産屋を建てた故地であると言われています。八尋島と言っていたのが、後世に屋島／八島というようになったと言われています。また、鑑真和尚が屋島に上陸した際に、当社で請願を行ってから山上に登ったと言われています。

この境内に残っている遺跡が鵜羽神社境内遺跡で、弥生時代後期から飛鳥時代にかけて土器製塩による塩の生産が行われていたことが発掘調査によって分かっています。平成二十六



鵜羽神社



鵜羽神社境内遺跡発掘調査箇所

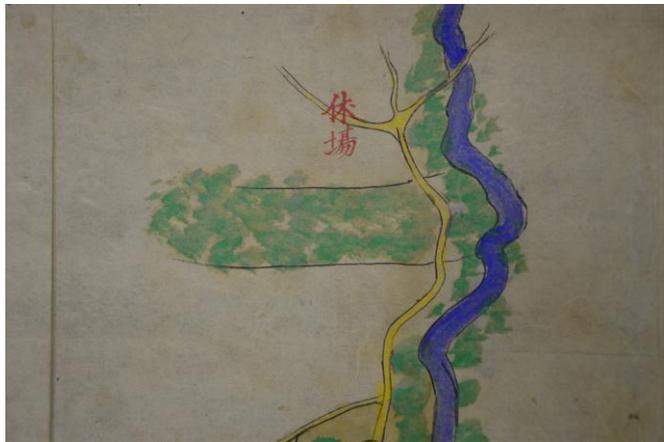
年度から二十七年年度の調査によって、直径六十センチメートル程度の、古墳時代前期（3世紀中頃〜4世紀代）の竈状の構造物であることが分かりました。ドーム状の天井を持つ構造は、海水の注ぎ炊きには不都合な構造であることから、塩づくりの工程の中でも最終工程にあたる焼き塩の行われた竈である可能性が想定されます。土器製塩の具体的な痕跡を初めて確認することができました。また、竈状の遺構が廃棄されてからも、盛衰はあるものの飛鳥時代まで連続して塩づくりがなされたことが分かり、断続的ではありますが、屋島西沿岸が連続的な塩づくりの一つの拠点であったことが明らかになりました。



竈状構造をもつ製塩施設

## 2 屋嶋城跡（浦生地区）

いわゆる浦生の石罫は、最初に屋嶋城跡の遺構として注目されたものです。明治六年に描かれた「浦生洛中地理絵図」には、大きな土手状のものが描かれており、当時の人々も大きな土手があることを認識していたようですが、「休場」と城内側に記されていることから、この場所から傾斜がきつくなることから、一端休憩をする場として認識されていただけで、屋嶋城であるという認識はなかったようです。その後、大正六年に関野貞氏が地元の松岡造酒蔵氏の案内で訪れて、史学雑誌に論考を掲載されました。これが、初めて屋嶋城に関する学術的研究と言えます。しかし、それ以後研究が深められないまま、昭和五十五年に高松市教育委員会によって調査が行われましたが、出土遺物が屋嶋城より新しかったことや当時の古代山城の調査研究が十分でなかったことから、評価ができないまま、屋嶋城の存在自体が保留と

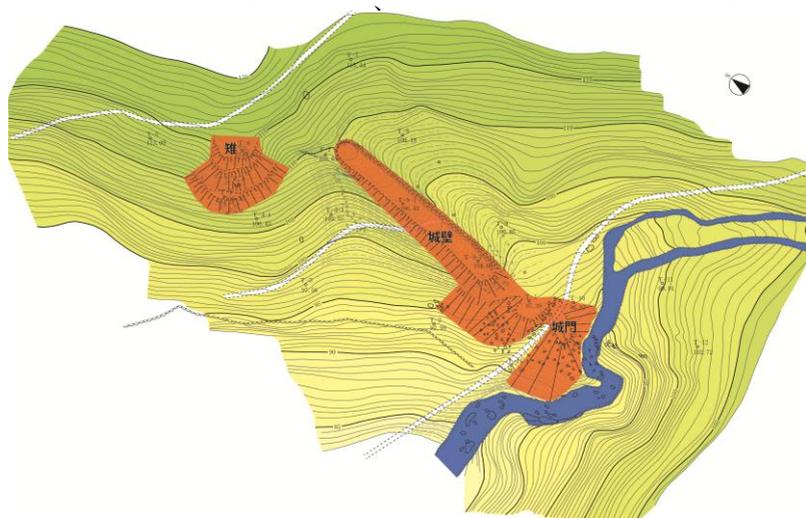


浦生洛中地理絵図

なっていました。

その後、地元研究者の平岡岩夫氏の石積み遺構の発見を契機として城門が発見され調査研究が進みました。同時に、古代山城研究も前進しており、山頂の城壁の外に小規模な城壁を築く例がいくつか確認されるようになり、浦生の石塁も同様な遺構である可能性が高くなりました。

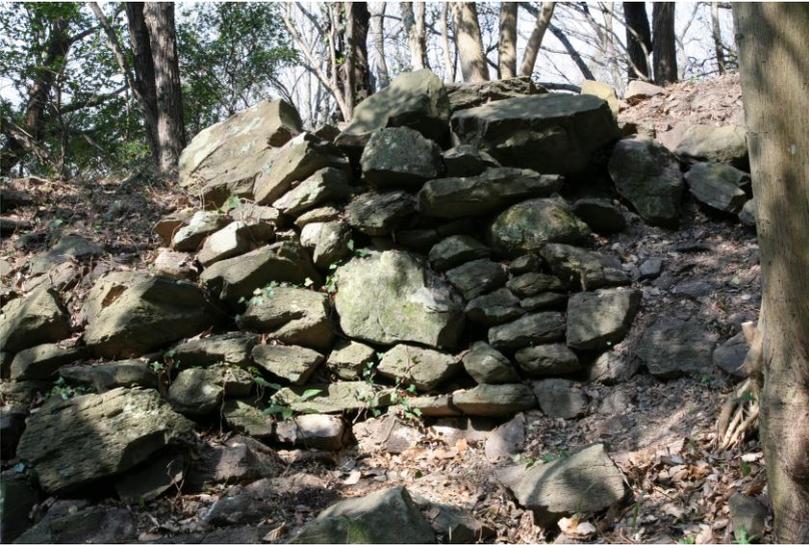
そのため、平成二十一年度から発掘調査を開始し、当時の地面と想定される箇所から七世紀後半の須恵器が出土し、城壁の年代は飛鳥時代に遡ることが明らかとなりました。その後、浦生の石塁の構造を解明すべく、小規模な調査を毎年実施しており、その結果、城壁構造、埋没している石積み遺構など、これまで明らかになっていなかった様々な点が判明し、山頂の城壁とともに屋嶋城を構成する施設で



浦生地区平面図



浦生地区城壁遠景



浦生地区城壁の石積み

あることが明らかになりました。昨年度からは、物見台と呼ばれている石塁で最も眺望の良い場所の調査を開始しました。なお、浦生地区の城壁構造は、大谷と呼ばれる北側の谷まで及んでいないと想定されることから、城壁自体は建設途中でやめてしまったのではないかという意見もあり、今後、検討する必要があります。

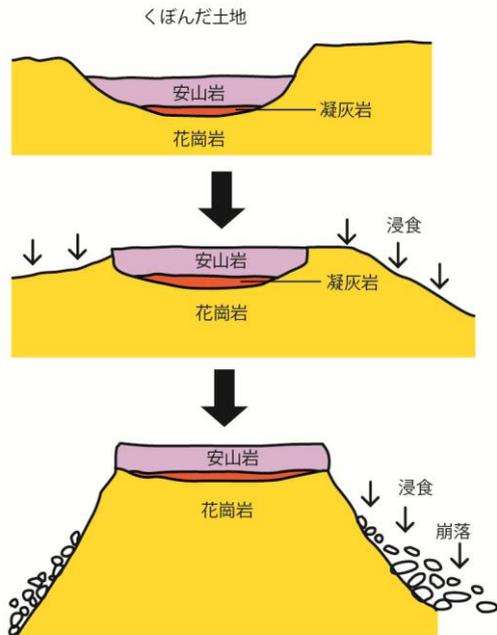
### 3 屋島の地形

今から一四〇〇万年前の火山活動によってサヌキトイドをはじめとする多様な安山岩が噴出し、後に屋島となる凹地（湖など）に流入しました。凹地に流入した安山岩溶岩は基盤の花崗岩、凝灰岩類の上に堆積し、長い年月をかけて安山岩溶岩の周囲の侵食が進行し、台地上のメサ地形を形成しました。花崗岩は標高一八〇メートル以下に認められ、北嶺では火山礫凝灰岩が、花崗岩と安山岩の間に堆積しています。斜面部には安山岩の崩積土が1〜2メートルほど堆積しており、斜面の侵食を食い止め、屋島の美しい稜線美を生み出していると考えられています。また、崩積土によって小さな谷が



屋島のかたち

埋められて、谷が少ない山とも言われています。長崎鼻近くの斜面でも、谷部を埋める崩積土が確認されています。



屋島の成り立ち

#### 4 【ちよっと一息】石切丁場と石引道

遊鶴亭から下ると途中に屋島洞窟と呼ばれている洞窟群が分布する箇所があります。明治頃まで採石が行われていたようですが、凝灰岩の採掘の跡で、いわゆる石切丁場と呼ばれる場所です。現在は、崩落の危険性が高く、立ち入りはできません。高松市では平成二十六・二十七年度に屋島全島のヘリレーザー測量を実施し、屋島の地形の分析を行っています。その中で、この石切丁場に加え、切り出した石を海辺へと運び出す道、いわゆる石引道の正確なルートを押さえることができました。2つの道があり、長崎鼻の西と東にそれぞれ、切り出した石材を運び、船で搬出したものと考えられます。



屋島洞窟（石切丁場跡）

## 5 長崎鼻古墳

当古墳は長崎鼻の海側に張り出した丘陵の尾根の最高所に築かれています。眼前に広がる瀬戸内海を意識した立地であることは間違いありません。後背地がなく、生産基盤を欠いていることから、海上交通との関わりや古墳の造営の基盤となった屋島を含む地域の象徴的な場所を選んで古墳が造られた可能性が考えられます。古墳の年代は5世紀初頭と考えられ、兵庫県の五色塚古墳（明石海峡大橋付近）に代表されるような海との関わりを意識した古墳と言えます。

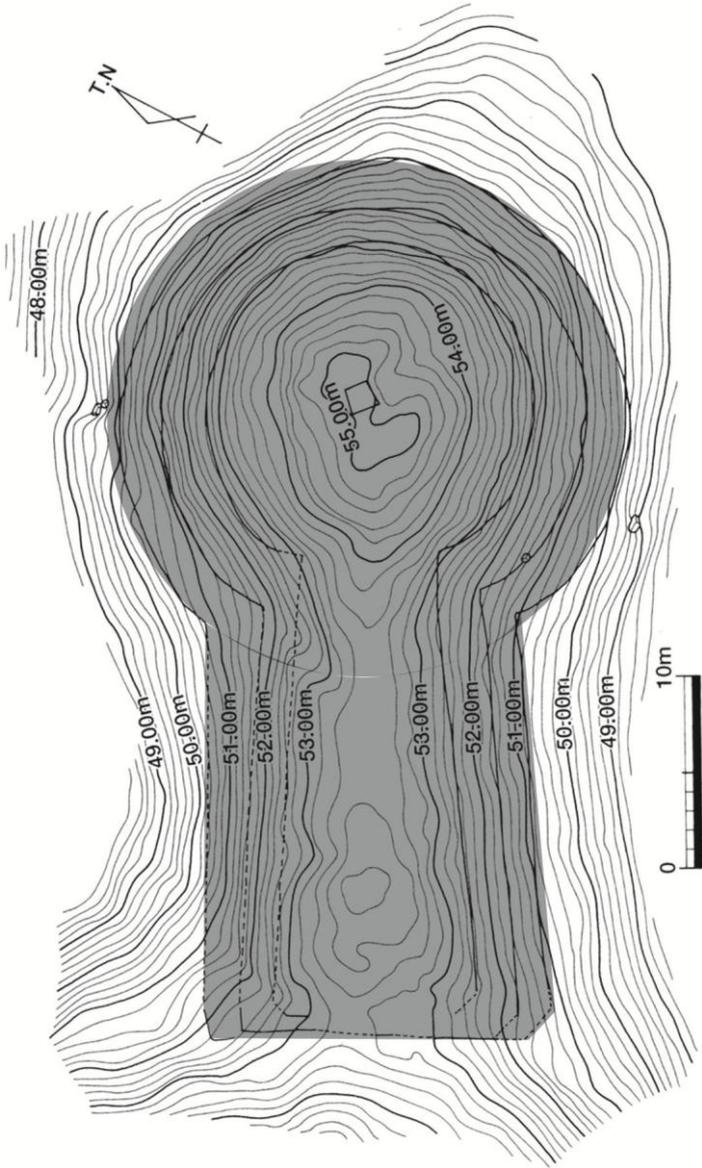
高松市教育委員会では平成八、九年度から発掘調査を実施し、三段構造の葺石をもつ全長四十五・八メートルの前方後円墳であることが明らかとなりました。墳丘の葺石の残存状況もよく、当時の状況をよくとどめていました。墳丘頂部の調査時に、盗掘孔から水銀朱によって赤く染まった剝拔式石棺が確認でき、石棺は阿蘇凝結凝灰岩製で、熊本県菊池川中流域から運ばれたものと考えられています。この石棺が明治初年に盗掘された記録が『木田郡誌』に記されており、刀剣、鏢、鉄鏃などが出土したようです。



長崎鼻古墳の葺石



長崎鼻古墳の石棺検出状況



長崎鼻古墳測量図

## 6 鯨の墓

築造の詳細は不明ですが、江戸時代に築かれたとも言われており、祠の中にはクジラの骨らしきものがあつたという記録が残っています。『香川新報』の明治三十五年四月八日の記事に湯元村に打ち上げられたクジラを拾った人がいるという記事があります。その頃に供養のために作られたのではないかと考えられています。瀬戸内海沿岸では、クジラを目撃や漂着の言い伝え、鯨墓などが残っており、その一つとして知られています。

## 7 遠見番と木里神社

江戸時代には高松藩が海上警備や島々と船との連絡のため、船奉行の配下に遠見番が置かれていました。番所には見張り場や狼煙場が置かれ、連絡用の船が一艘配置されていたと言われています。長崎鼻には二人が配置されていたようです。松平頼重は長崎鼻の防備上の重要性から元水戸藩士の鈴木道栄を住ませ、代々、鈴木家が木里神社をお祀りしてきました。この木里神社は屋船匂匂迺遅神（ヤフネククノチノカミ）という船の神様を祭神としています。その創建はわかりませんが、先の道栄が

移り住んだ際にはすでに祀られていたと言われています。

## 8 砲台跡

文久三（一八六三）年、高松藩主の命により、この地に砲台が築かれ、東の大串鼻、庵治の鎌野、下笠居の神在鼻砲台とともに海防を整備しました。いわゆる御台場です。湯元の地藏寺には御固場を設置し、郷侍のほか兵士が配置されるなど、堅固な防備がなされていました。

藤川三溪の『叩心編』によれば、中・下段にそれぞれ三門の大砲を設置していたと書かれています。『山田郡湯元村長崎之岬旧砲台見取図』によれば、北の海上へと向けて上中下段に分かれて、平場が構築され、上段は土塁に囲まれた広い空間があり、中・下段には土塁の各所が切れており、大砲を備えていた場所が確認できます。下段は円形の石積みによって造成がなされていましたが、現在は、樹木の繁茂や台風などによる被害が著しい状態です。

このほかに、木里神社の南北両側に有事の際の連絡手段として狼煙場が設けられています。長崎鼻に関する史跡は砲台跡と古墳が知られるのみですが、立地から考えると、海に関わる施設がほかの時

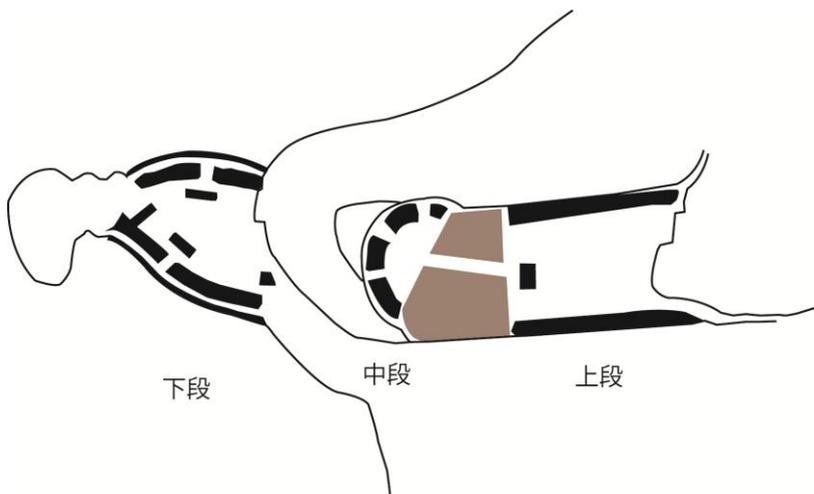
代にも存在した可能性があります。



長崎鼻砲台跡遠景



長崎鼻砲台跡下段の石積み



『山田郡瀧元村長崎之岬旧砲台見取図』に基づき作図

### 長崎鼻砲台跡模式図

参考文献

大石一句一九八〇『屋島のあゆみ』

高松市・香川大学天然記念物屋島調査団二〇一四『天然記念物屋島調査報告書』

高松市教育委員会二〇〇三『史跡天然記念物屋島』

高松市商工観光課一九六二『観光学術読本 屋島』

高松市歴史資料館二〇一五『史跡・天然記念物屋島指定八十周年記念企画展』

松原秀明編一九八一『日本名所風俗図会』十四 四国の巻

屋島文化協会二〇一〇『屋島風土記』



屋嶋城跡浦生地区出土の須恵器

★長崎鼻砲台跡

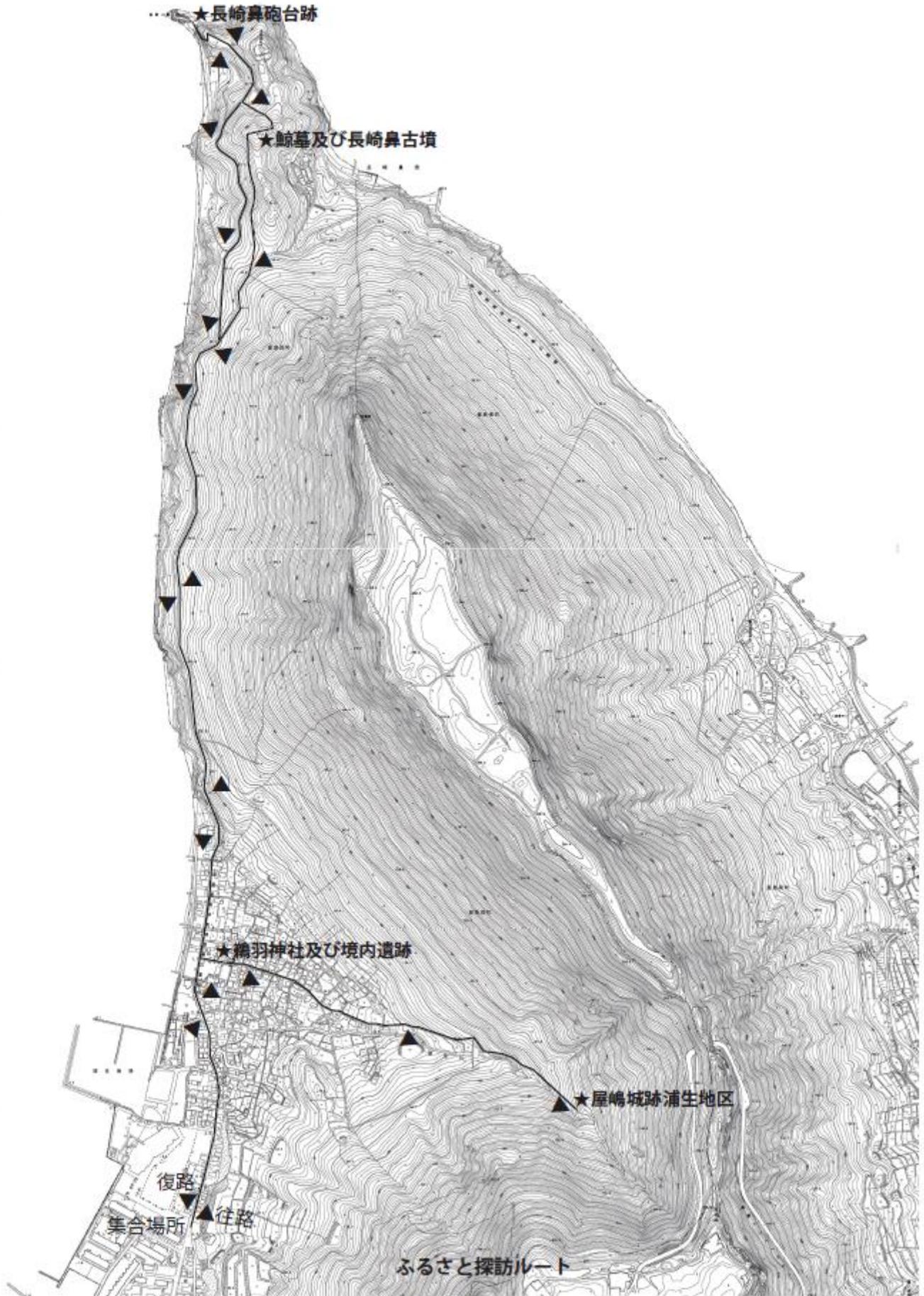
★鯨墓及び長崎鼻古墳

★鶴羽神社及び境内遺跡

★屋嶋城跡浦生地区

復路  
集合場所  
往路

ふるさと探訪ルート



10月25日(日) ことでんバス健康ランド前からの復路

◆ことでんバス(屋島大橋線乗り)

(健康ランド前)

(高松駅)

(瓦町)

11:50 発 → 12:09 → 12:20 着

12:50 発 → 13:09 → 13:20 着



## 次回のふるさと探訪は…

テーマ 宇多津の社寺を訪ねる(予定)

とき 平成27年11月22日(日)

9:30~12:00頃

集合場所 宇多津町役場北側

町民コミュニティ会館正面入口付近

講師 奥村 貞夫さん(宇多津町文化財保護協会会長)

☆公共交通機関をご利用ください。

☆広報「たかまつ」11月15日号に開催案内を掲載しますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課(TEL839-2660「午前7時30分~開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

---

### ★次回の交通案内★

◆ことでん長尾線乗り → 乗り換え → ◆JR予讃線

(瓦町) (高松築港駅)

(高松駅) (宇多津駅)

8:32 → 8:36 …徒歩7分… 8:45 → 9:10 着

## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましよ

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。